

## 味方がいるということ

今の私は何事にも全力で挑戦し、様々な人と積極的に関わるような明るい性格です。このような性格になったのは、一人の親友がいるからだと思います。

私は小学生の時、クラブ選びで一人の友達と音楽クラブに入りました。クラスも一緒、休み時間も二人でいるような関係でした。しかし、私にはその関係性に不安な気持ちがありました。それは、その友達に近づきすぎて「鬱陶しい」と思われ、嫌われてしまうことへの恐怖の気持ちでした。

私が小学一年生の時、保育園のときからどこへ行くにも、何をすることも一緒の子がいました。私はその子といる時間が楽しくて、毎日のように遊びに誘いました。ある日、いつものように公園で遊び、「またね！」と挨拶を交わし家に帰ると、その子のお母さんが家にいました。その子のお母さんと私の母は何か真剣な表情で話していて、私の母は少し悲しんでいるような、怒っているような…そんな表情が見て取れました。母同士の話が終わると「こっち来て」と母は私を呼び、リビングで向き合いました。すると母は「あの子と仲良くしすぎた。少し距離を置こう。」と私に告げました。私は母の言葉に唖然としました。「仲良くしすぎると、友達を逆に苦しめてしまうんだ。」と幼いながらに思ったのを今でも覚えています。その子がどのような思いで私と遊んでいたかはわかりません。でも私にとって楽しい思い出を一緒に作れたことは今でも感謝しています。

それから二年生になり私は少しの間、女子三人からいじめを受けていました。きっかけはとある女の子が二人の女の子からいじめられている所を目撃した事です。当時から正義感の強かった私は直ぐにそれを止めました。すると次の日から私はその二人の女の子と、いじめられていた女の子から悪口を言われるようになりました。「どうして助けてあげた私がいじめられなければいけないんだ。」と裏切られた気持ちでいた私は、すぐに母に言いました。母は直ぐに対応してくれ、事は収まりました。あの三人から何を言われたか、はっきりとは覚えていません。しかし、そこからの私はとにかく友達と距離を置き、顔色を窺うようになりました。

そんな私にも四年生の時、今となっては「親友」とも呼べる、ある一人の子と出会います。

三年生の際にクラスが同じになり、席が近くになった事で話し始めました。そこから常に二人で行動するくらい仲が良かったです。しかし、私は友達から「悪口を言われていないか」と不安になったり「疎まれていないか」と心配していま

した。そんな時、四年生から入るクラブ決めがありました。私たちは数あるクラブの中から音楽クラブに入りました。今の私と親友を繋ぐ原点ともいえる出来事です。そして、五年生になった時に私たちは音楽の楽しさに気づき、クラブだけでなく市のマーチングバンドにも入りました。中学校では二人で吹奏楽部に入部。私は部長、親友は副部長として最後まで部を引っ張り続けました。中学校に入っても私の隣にはいつも親友がいます。

親友と出会ってからは「味方がいる」という安心感からか、色々な人に自分から声をかけるようになりました。クラスで一人になっている子がいたら、話しかけるよう意識しています。挨拶するだけでもいい。私が「貴方がそこに居る事わかってるよ」と、伝えることが出来ればいいと思っているし、そのために挨拶があると、私は思います。

もし、私がいじめられなければ、いじめられる人の気持ちは理解できなかったし、もし私が今の親友と出会わなければ、色々な人と関わる事は無かったと思います。

「友達」は良くも悪くも人生に影響する存在です。私の親友はどんな時でも「味方」でした。だから今度は私が関わった人達の「味方」でありたいと思います。